2019年度　学習院大学東洋文化研究所　東洋文化講座

歴史学と史資料
―文献史学と考古学の視点から

第99回｜10月16日（水）　18:00～20:00

加耶考古学の進展と加耶史研究の現況

■ 講　師：田中 俊明氏
（滋賀県立大学名誉教授）
■ 場　所：学習院大学北1号館308

加耶地域における発掘調査は、開発もつづきまた現政権の後押しもあり、相応の成果をあげている。かつては古墳群の調査が主であったが、昨今はそれに加えて生産遺構・山城さらに王宮の追究が進む。そこで最近の調査成果とそれに応じた加耶史研究の現況を述べることにしたい。

第101回｜11月22日（金）　18:00～20:00

碑文の製作/再解釈/偽造からみた12-21世紀の中国華北社会

■ 講　師：飯山 知保氏
（早稲田大学文学学術院教授）
■ 場　所：学習院大学北1号館308

「碑文」ときくと、我々はその不変性や真正性を想定しがちである。本講座では主に地上に立てられた/ 刻まれた碑文を中心に、実際には歴史上いかに人々がそれらを恣意的に利用・改変してきたのかを考え、あわせてその文献史料・考古資料との史料論的差異を考察する。

第102回｜11月27日（水）　18:00～20:00

皇帝陵の考古学―三国から隋まで

■ 講　師：市元 塁氏
（東京国立博物館主任研究員）
■ 場　所：学習院大学北1号館308

ここ四半世紀の間の発掘調査によって明らかとなった曹操高陵、北周武帝孝陵、隋煬帝墓について、主に考古資料と正史の記録を活用しつつその実像に迫る。また、これらを総括して、当該時期の陵墓のありかたについて素描を試みたい。

※第100回については、別途記念講演会を開催する予定です。

入場無料・事前申し込み不要

監　修：高柳　信夫（東洋文化研究所長）
司　会：植田喜兵成智（東洋文化研究所助教）
　　鈴木　舞（東洋文化研究所助教）

学習院大学東洋文化研究所

今年度の東洋文化講座では、
「歴史学者は、文献資料・文字資料・考古資料など各種の史資料を
どのように組み合わせて、歴史像を作り上げていくのか？」をテーマに、
3名の講師をお招きし、連続講演会を開催いたします。

【講師プロフィール】

田中 俊明 氏（滋賀県立大学名誉教授）

1952年福井県生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院文学研究科博士課程認定修了。
堺女子短期大学講師・助教授を経て、滋賀県立大学助教授・教授。2018年停年退職。
著書に『大伽耶連盟の興亡と「任那」－加耶琴だけが残った』（吉川弘文館、1992年）、
『古代の日本と加耶』（山川出版社、2009年）などがある。

飯山 知保 氏（早稲田大学文学学術院教授）

2007 年早稲田大学文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。2017年、早稲田大学文学学術院准教授。2019年4月より現職。
専門は中国華北社会史。主著に、『金元時代の華北社会と科挙制度―もう一つの「士人層」―』(早稲田大学出版部、2011 年);
“Steles and Status: Evidence for the Emergence of a New Elite in Yuan North China,” /Journal of Chinese History/, vol.1, pp.1-24, November, 2016; “Genealogical Steles in North China during the Jin and Yuan Dynasties,” /The International Journal of Asian Studies/, vol.13-2, pp.151-196, July,2016 など。

市元 塁 氏（東京国立博物館主任研究員）

草津市教育委員会、九州国立博物館設立準備室、九州国立博物館を経て、
2016 年4 月から現職。専門は東アジア考古学。魏晋南北朝期の墓制を主たる研究対象とする。
近著に「曹魏の鮮卑頭と郭落帯」『古代文化』70-4、共著『東京国立博物館図版目録　東洋古鏡篇』など。

学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1（学習院大学　北1号館4階）
■JR山手線目白駅　徒歩1分
TEL：03-5992-1015　FAX：03-5992-1021
E-mail：ori-off@gakushuin.ac.jp
URL：https://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html

表裏画像：牛車型明器（学習院大学史料館所蔵）